

平成21年6月26日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19520036
 研究課題名（和文） 和解の倫理学としての滝沢克己の後期思想の総合的研究
 研究課題名（英文） Synthetic Studies on the thoughts of ‘Ethics of Reconciliation’
 in the Latter Period of Katsumi Takizawa
 研究代表者
 富吉 建周（TOMIYOSHI TAKECHIKA）
 九州産業大学・国際文化学部・教授
 研究者番号：60069515

研究成果の概要：

われわれはすでに滝沢克己の中期思想—最も大切な思想であり、研究されていなかったそれを—を解明した。それを受けて、「和解の倫理学としての滝沢克己の後期思想の総合的研究」という課題によって、われわれは滝沢克己の後期思想の全体像の解明に取り組んだ。現代の対立する宗教・学問・芸道との対話を通して「現代の精神的状況」を分析し、それらの間の和解をもたらそうと滝沢克己によってなされた研究の検証である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・倫理学

キーワード：対話と和解、人間存在、原本的事実、哲学の対象、歴史的社会的二極面、キリスト論、仏性論

1. 研究開始当初の背景

総じて滝沢克己の思想の研究は、西洋哲学崇拝の傾向のゆえに、これまで研究の対象となることはなかった。ただ例外として、滝沢自身の積極的問題提起によって、ドイツの神

学界でそのカール・バルト研究が注目されるようになったこと、また日本において「仏教とキリスト教の対話」や「新約学（歴史学）と哲学との対話」に関して、その『仏教とキリスト教』及び『聖書のイエスと現代の思惟』

が著者をまきこんだ形で大いに論ぜられたこと、がある。従って、もっとも大切なその中期思想や後期思想（指摘した分野以外）の解明はなされなかった。

2. 研究の目的

われわれの前回の研究課題「西田哲学及びバルト神学の継承者としての滝沢克己の思想の総合的研究」によって、その中期思想の解明を行った。今回の研究課題「和解の倫理学としての滝沢克己の後期思想の総合的研究」によって、「和解の倫理学」と性格づけられ、「現代の精神的状況」の解明と総括することのできるその後期思想の全体像の究明を目的とするのである。

3. 研究の方法

(1) 滝沢克己が中期思想において獲得した人間や社会についての原理的・本質的な理解を方法として用いて、現代の対立する宗教・学問・芸道について、それらと真剣に対話することによって「現代の精神的状況」を解明し、併せてそれらの間に和解をもたらそうと努めた滝沢克己の分析のあとを検証する。
(2) 具体的には各担当者が自分自身その対話に参加できると思われる課題を引きうけて、滝沢克己の「現代の精神的状況」の解明をあとづけて、その意義を考察する。

4. 研究成果

滝沢克己の中期思想の解明とともに、その後期思想の解明を行ったことは、これまで誰も研究してこなかったことである。これによって思想的に混迷している現代の思想界に、「哲学」の真実の対象を提示し、哲学を正道に立ち帰らせるインパクトを持っていることを示し、併せて滝沢哲学が、西田哲学やバルト神学を超えた、マルクスの『資本論』や宇野経済学を超えた、世界的な思想であることを解明し、また多方面にわたって「現代の精神的状況」を厳密に学問的方法によって分

析したことは未曾有のことであることを提示することができたと思われる。

尚、最終報告書は本報告書初出の論文・翻訳(6件)即ち、

- ① 中島秀憲 「『ピエティスト』ヘーゲル及び滝沢克己とバルトとの対話」、最終報告書 pp. 87-162
- ② 寺園喜基 「ボン時代の滝沢克己とカール・バルト」、最終報告書 pp. 541-564
- ③ 寺園喜基 「滝沢克己『キリスト論の根本問題』」(翻訳)最終報告書 pp. 531-540
- ④ 寺園喜基 「滝沢克己とブルトマン」、最終報告書 pp. 163-174
- ⑤ 辻厚治 「滝沢克己『現代の医療と宗教』において死はどういうふうに扱われているか?」、最終報告書 pp. 195-202
- ⑥ 水田信 「芥川龍之介と滝沢克己」、最終報告書 pp. 223-242

を加えて合計 22 件の論文を掲載し、500 頁を超えるものとなる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

- ① 富吉建周、「和解の倫理学としての滝沢克己の後期思想について」、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、第 42 号、2009 年 3 月、pp.171-191
- ② 富吉建周、「滝沢克己『聖書を読む マタイ福音書講解』の研究(その一)」、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、第 42 号、2009 年、pp.193-256
- ③ 水田信、「滝沢克己と実存思想」、滝沢克己協会編「思想のひろば」、査読有、第 20 号、2009 年、pp.88-99
- ④ 前田保、「『哲学の根本問題』と『西田哲学の根本問題』」、滝沢克己協会編「思想のひろば」、査読有、第 20 号、2009 年、pp.120-127

- ⑤ 前田保、「カール・バルトと滝沢克己—交流の真実」、滝沢克己協会編「思想のひろば」、査読有、第 20 号、2009 年、pp.28—53
- ⑥ 村上一朗、「親鸞と滝沢克己」、滝沢克己協会編「思想のひろば」、査読有、第 20 号、2009 年、pp.100—111
- ⑦ 坂口博、「滝沢克己「原点」論の帰趨」、滝沢克己協会編「思想のひろば」、査読有、第 20 号、2009 年、pp.112—119
- ⑧ 富吉建周、「滝沢克己における仏教とキリスト教」、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、第 41 号、2008 年、pp.73—128
- ⑨ 富吉建周、「ルネ・デカルトと滝沢克己(下その三)」、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、第 40 号、2008 年、pp.83—114
- ⑩ 中島秀憲、「ヘーゲルはプロテスタントか」、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、第 39 号、2008 年、pp.43—74
- ⑪ 辻厚治、「イザヤ・ベンダサン批判の矢ははたして射抜いたのか—『講座 日本人の精神構造』について—」、『講座 日本人の精神構造(上・下)』(創言社)所収、2008 年、pp.259—285
- ⑫ 富吉建周、「ルネ・デカルトと滝沢克己(下その二)」、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、第 39 号、2008 年、pp.75—121
- ⑬ 富吉建周、「ルネ・デカルトと滝沢克己(下その一)」、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、第 38 号、2007 年、pp.43—66
- ⑭ 富吉建周、「ルネ・デカルトと滝沢克己(中その七)」、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、第 37 号、2007 年、pp.87—109
- ⑮ 富吉建周、「ルネ・デカルトと滝沢克己(中その六)」、九州産業大学国際文化学部紀要、査読無、第 36 号、2007 年、pp.85—113

[学会発表] (計 4 件)

- ① 水田信、「芥川龍之介と滝沢克己」、滝沢克己協会セミナー、2009 年 1 月 17 日、福岡女学院天神サテライト
- ② 寺園喜基、「カール・バルトと滝沢克己」、滝沢克己協会セミナー、2008 年 6 月 28 日、福岡女学院天神サテライト
- ③ 坂口博、「滝沢克己「原点」論をめぐる諸問題」、滝沢克己協会セミナー、2008 年 3 月 8 日、福岡女学院天神サテライト
- ④ 村上一朗、「歎異抄と滝沢克己」、滝沢克己協会セミナー、2007 年 9 月 29 日、福岡女学院天神サテライト

[図書] (計 1 件)

- ① 富吉建周、『ルネ・デカルトと滝沢克己(上)』、創言社、2009 年、402 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

富吉 建周 (TOMIYOSHI TAKECHIKA)
九州産業大学・国際文化学部・教授
研究者番号：60069515

(2) 研究分担者

中島 秀憲 (NAKASHIMA HIDENORI)
九州産業大学・国際文化学部・教授
研究者番号：60207769

寺園 喜基 (TERAZONO YOSHIKI)
西南学院大学・神学部・教授
研究者番号：70036995

辻 厚治 (TSUJI KOJI)
福岡女学院大学・人間関係学部・教授
研究者番号：40227385

(3) 研究協力者

水田 信 (MIZUTA MAKOTO)
元福岡歯科大学・教授

前田 保 (MAEDA TAMOTSU)
和光大学・東洋大学・非常勤講師

村上 一郎 (MURAKAMI ICHIROU)
創言社・社長

坂口 博 (SAKAGUCHI HIROSHI)
創言社・編集長